

災害に備えよう



みんなのまちはみんなを守る

# 自主防災組織 活動事例集

令和4年3月  
愛媛県



# 目次

はじめに .....	1
令和3年度えひめ自助・共助推進フェアシンポジウム .....	2

## 優良団体表彰の受賞事例

○要支援者の実態に応じた避難訓練の実施 .....	4
（松山市／高浜地区自主防災連合会）	
○災害フェーズや地域特性に配慮した防災訓練の実施 .....	6
（今治市／常盤地区防災会）	
○災害図上研修を踏まえた防災マップ及び災害・避難カードの作成 .....	8
（大洲市／田口地区自主防災組織）	

## 各地の活動事例

○地域の守り手を中心となった住民参加型の津波避難訓練の実施 .....	10
（今治市／吉海地区防災会）	
○愛媛大学との連携による地区防災計画の作成 .....	11
（宇和島市／玉津地区自主防災会）	
○新型コロナウイルス感染症に配慮した見学型訓練の実施 .....	12
（八幡浜市／白浜地区自主防災会）	
○実効性のある避難所運営マニュアルへの見直しと避難訓練の実施 .....	13
（新居浜市／角野校区防災会）	
○気象情報に係る研修と避難訓練の実施 .....	14
（西条市／橘校区連合自治会）	
○3地区合同・連携による防災訓練の実施 .....	15
（伊予市／上吾川中地区自主防災会・上吾川西地区自主防災会・上吾川東地区自主防災会）	
○新型コロナウイルス感染症に対応した避難所のゾーニング訓練等の実施 .....	16
（四国中央市／長津地区自主防災組織連絡協議会）	
○住民主体による避難所設営やマイタイムライン作成講座の実施 .....	17
（西予市／農友地区自主防災班）	
○冬季夜間の大規模地震発生等を想定した避難訓練の実施 .....	18
（西予市／二及自主防災会）	
○地区防災拠点運営訓練の実施 .....	19
（上島町／中の谷・久保の谷自主防災会）	
○避難所運営ゲーム(HUG)など総合防災訓練の実施 .....	20
（松前町／松前町西高柳自主防災会）	
○夜間・停電下を想定した要支援者搬送救助訓練の実施 .....	21
（砥部町／上野区自治会自主防災組織）	
○愛媛大学と連携した「防災運動会」の実施 .....	22
（内子町／畑中自治会自主防災組織）	
○倒木などチェーンソー操作訓練の実施 .....	23
（伊方町／リゾート地区自主防災組織）	
○夜間停電発生時の避難所開設訓練の実施 .....	24
（鬼北町／中野川自主防災会）	
○3地区合同による避難訓練及び避難所開設訓練の実施 .....	25
（愛南町／船越・久家・下久家自主防災会）	

## はじめに

近年、地震や大雨などによる多くの被害が全国各地で発生しています。愛媛県においても平成30年7月の西日本豪雨で甚大な被害を受け、災害による死者が27名、避難生活中の体調不良による災害関連死が6名を数えたほか、住家被害は全壊627戸、半壊3,118戸、床上・床下浸水2,918戸の合計6,663戸(R3.3.1現在)にのぼりました。



西日本豪雨災害時の大洲市

また、本県に大きな被害をもたらすことが懸念される南海トラフ地震の発生確率は今後30年以内に70~80%とされています。

防災対策は、「自助」、「共助」、「公助」の3つが上手く連携を保つことで、効果を発揮することができます。



特に、大規模災害の発災直後には、公的な防災機関の活動能力は著しく低下しますので、人命救助や初期の消火活動は近隣住民の協力、すなわち共助に負うところが大きく、その主体となる自主防災組織の活動は極めて重要です。

愛媛県では、西日本豪雨災害の検証において、日頃の自主防災組織の活動の成果で住民が早めの避難を行い、被害を最小限に食い止めた事例が報告された一方で、自主防災組織の活動に濃淡があった等の課題も挙げられたことを受け、令和元年度から令和3年度にかけての3年間、「自主防災組織活性化支援事業」を実施しました。

この事例集は、補助事業を活用した取組みの中から、各地の優れた事例を掲載しています。各地では様々な取組みが行われており、本事例集に掲載されているものは一例です。

事例からも分かるように、自主防災活動にはこれといった規則・ルールはありません。皆様の自由な発想でできる活動です。また、地域住民が一体となりアイデアを出し合って取り組むことで、防犯や福祉など様々な分野への拡がりも期待できます。

自主防災活動のリーダーとなる皆様に、ぜひ参考にさせていただき、地域の防災力向上に向けた活動に取り組んでいただきたいと思います。

がんばるけん  
えひめけん



# 令和3年度えひめ自助・共助推進フェアシンポジウム (愛媛県自主防災組織・防災士連絡調整会)

えひめ防災週間(12月17日～23日)にあわせて、県下の自主防災組織関係者や防災士の皆様が、最新の防災知識や技術、先進事例の習得、共有を行うとともに、相互の連携を強化し、自助・共助の推進を図るため、「えひめ自助・共助推進フェアシンポジウム」を開催しました。

また、本シンポジウムは各市町の自主防災組織、防災士の代表者を構成員とする「愛媛県自主防災組織・防災士連絡調整会」としても実施しました。

日 時:令和3年12月21日(火)13時00分～15時30分  
開催方法:県内各会場にオンライン配信  
テ ー マ:「災害時の住民避難を考える」

## 【次第】

- 主催者挨拶(愛媛県知事 中村時広)  
コロナ禍で様々な制約を受ける中、工夫をこらした活動を継続され、地域防災力の向上に尽力されている参加者の皆様への感謝と期待のメッセージを述べました。
- 自主防災組織活性化支援事業優良団体表彰式  
令和元年度から3年間実施してきた「自主防災組織活性化支援事業」を活用した自主防災組織の中から優れた取組を行った団体の方々に愛媛県防災安全統括部長の東より表彰状が手渡されました。  
(受賞団体)
  - ・高浜地区自主防災連合会(松山市)
  - ・常盤地区防災会(今治市)
  - ・田口地区自主防災組織(大洲市)
- シェイクアウト訓練  
参加者全員で地震発生時の安全確保行動をとるシェイクアウト訓練を行いました。
- 活動事例紹介  
自主防災組織活性化支援事業優良団体表彰受賞団体から活動事例紹介。(4～9ページ参照)
- 講演「住民避難の実態と課題」  
(愛媛大学防災情報研究センター 羽鳥剛史准教授)  
愛媛県、愛媛大学及び県内市町が連携して取り組んでいる「住民避難行動調査分析事業」の調査結果を踏まえ、住民避難の課題に係る課題について講演いただきました。
- 講演「住民避難に関する愛媛県の取組」  
(愛媛県防災危機管理課長 岡田文夫)  
分散避難の把握・支援を行うシステムや避難行動要支援者の個別避難計画作成モデル事業など、住民避難に関する愛媛県の取組について紹介しました。



オンライン配信会場の様子



受賞団体の皆様



活動事例紹介(高浜地区自主防災連合会)



活動事例紹介(常盤地区防災会)



活動事例紹介(田口地区自主防災組織)

## ○パネルディスカッション

「災害時の住民避難を考える」をテーマとして、事前に愛媛県自主防災組織・防災士連絡調整会の皆様からいただいたアンケートをもとに、活発な意見交換が行われました。

【コーディネーター】愛媛大学防災情報研究センター 二神透 准教授

【パネリスト】愛媛大学防災情報研究センター 羽鳥剛史 准教授

高浜地区自主防災連合会 会長 蔭原政徳 様

常盤地区防災会 防災部長 仙波正宏 様

田口地区自主防災組織 会長 武田麗子 様

愛媛県防災危機管理課長 岡田文夫

### <分散避難(在宅、親戚知人宅、車中泊等)>

蔭原会長から、地区全世帯対象の避難先希望調査を行ったところ、小中学校への避難希望が収容人数を大幅に超えていたという結果が紹介されたほか、二神准教授から、車中避難の有効性ととともに、エコノミー症候群の危険に関する啓発の必要性が指摘されました。

### <避難所へ避難する人数が少ない理由>

武田会長から、被災した経験がある人でも避難しないという課題が投げかけられ、羽鳥准教授から、平常時に避難する基準を決めておくことや、防災活動以外で避難所をもっと身近に感じ、避難所に行く負担を下げることの必要性が指摘されました。

### <コロナ禍でも地域防災力の維持・向上を図るための取組>

仙波部長から、全戸配布している防災だよりが紹介されました。蔭原会長は、コロナだからといって活動を止めず、常に情報を発信し、人が集まらなくても自分たちでやれることを考えながら動くことが重要と述べられました。

### <避難行動要支援者に関する取組>

仙波部長から、10戸単位のグループを作り助け合える組織作りを進めていることが紹介されました。武田会長からは、独居老人の方1人に対し、近所の2、3人が見守る地域の取組「見守り推進員」が紹介されました。

### <自主防災組織の活性化に関する取組>

蔭原会長から、祭りなど地域活動の中で防災に興味をもつ方を見つけて組織に入ってもらおうようにしていること、仙波部長からは、防災教育の内容を子どもが家庭に持ち帰ることが防災意識向上につながることを紹介されました。

### <議論のまとめ>

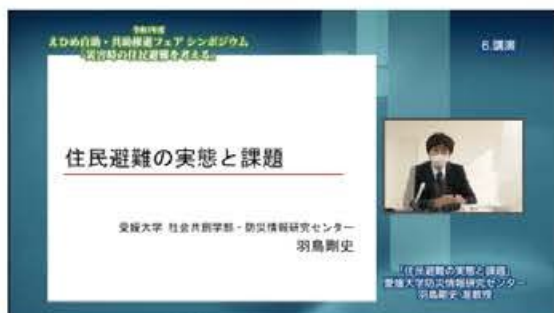
二神准教授が、「避難のタイミングを地域で決めることで、早めの避難につながる。気候変動により雨の降り方が変わってきたことを意識して、各地域で住民が避難について意識を高める取組みを進めていただきたい」と結びました。

### <質疑応答>

各オンライン配信会場の皆様からパネリストへ質問が寄せられ、先進事例について熱心に情報交換がなされました。

【詳細はこちら】

<https://www.pref.ehime.jp/h15350/jijokyoujo/r3fair/symposium.html>



講演「住民避難の実態と課題」



パネルディスカッション

## 要支援者の実態に応じた避難訓練の実施

組織名:高浜地区自主防災連合会

所在地:松山市高浜地区全域

構成人数:7,081人



### 地域の特徴

高浜地区は、松山市の北西部に位置し、住宅地の背後には広範囲に土砂災害警戒区域が指定されている。近年では、平成30年7月の西日本豪雨時に大きな被害が発生した。また、地域住民の高齢化が進み、独居高齢者が増加しているため、要支援者の災害時支援に力を入れている。

### 活動概要

高浜地区自主防災連合会には、地区独自で作成した要支援者名簿と要支援者マップが存在する。

今回、マップをもとに、連合会のメンバーをはじめ、民生委員、消防団員などで安否確認のため要支援者宅を回り、要した時間を計測したほか、一部の要支援者や要支援者役を避難所まで搬送する時間を計測した。

その他、避難所となる中学校の体育館で、段ボールベッドの組み立てなど避難所開設訓練も実施した。



避難行動要支援者を避難所まで搬送

### ポイント

- 地区で作成した名簿とマップに基づく要支援者の安否確認や避難者搬送に必要な時間の把握
- 要支援者等に配慮した避難所開設訓練の実施



段ボールベッドの組み立て

### 今後に向けて

新型コロナウイルス感染予防のため、本格的な要支援者搬送訓練は実施できなかったが、今後も要支援者の訓練参加を進め、発災時に「本当に助け合える」組織作りを目指す。

### コメント

#### 松山市 防災・危機管理課

避難行動要支援者の対策について、地区独自で要支援者名簿を作成したり、それを活用した訓練を実施するなど具体的な取組を進めている自主防災組織はまだ少ないため、今回の取組は、他の組織の模範として有意義な事例であると思います。



要支援者台帳とマップ



要支援者安否確認の状況



要支援者搬送状況①



要支援者搬送状況②

避難行動要支援者対応訓練(安否確認時間調査等)

令和2年3月1日

赤字=要支援者を搬送した防災会

1) 要支援者安否確認時間

\* 新型コロナウイルスの関係上避難所への報告は代表者として、報告終了した防災会順に休養して早期に解散とした。

確認件数は訓練時の数

防災会名	会長	民生	防災士	リーダークラブ	消防団	他役員	参加者	確認軒数	区分け	開始時刻	終了時刻	所要時間	搬送開始	到着	所要時間	搬送手段	備考
松ノ木町	1	2	3				6	40	2	9:30	10:15	45				車	
すみれ野	1	(1)	2				3	46	1	9:30	10:40	70				徒歩	(1)は民生と防災士業務
石風呂町	1	1	3	1	2	2	10	24	1	9:30	9:50	20	10:00	10:13	13	リヤカー	・通字路を使用して搬送 ・リヤカーのハンドルねじが危ない ・足が重い人がリヤカーに乗る場合検討
県団地	1		1			1	3	14	1	9:30	9:47	17				徒歩	
東梅津寺	1	(1)	1			1	3	9	1	9:30	9:45	15				徒歩	(1)は民生と防災士業務
美浜	1	1	1			1	4	27	1	9:30	9:50	20				徒歩	
新浜	1	1	2	1	3		8	31	2	9:44	10:21	37	10:23	10:39	16	車いす	・県道の歩道を使用して搬送
港山	1	1	1			2	5	13	1	9:30	9:45	15				徒歩	
梅津寺	1	1	1				3	14	1	9:09	9:51	42				徒歩	
一丁目	1	2	3				6	57	2	9:30	10:10	40				徒歩	
二丁目	1	1	1			7	10	10	1	9:30	9:45	15				徒歩	・発災時刻が昼間、夜間で要支援者とのコンタクトに時間差がある。 ・電話、鍵、搬送準備と時間の問題。 ・協力員宅から要支援者宅までの時間と搬送時間での差が発生する。
三丁目	1	1				1	3	18	1	9:30	9:45	15				バイク	
四丁目	1	1	1				3	16	1	9:30	9:55	25				車	
五丁目		1	1			1	3	9	1	9:30	10:00	30				車	
六丁目	1	1	2	1		1	6	20	1	9:30	10:01	31	10:09	10:16	7	車両(車いす)	・車両に車いすを乗せて搬送
避難所			4	1		1	6										・避難所設置(シート、ベット開仕切り)を行ない、安否確認タイム表の集計を行った。
西消防署							3										
計	14	14	27	4	5	18		348									
人数総計								85									

避難行動要支援者安否確認時間集計結果

## 災害フェーズや地域特性に配慮した防災訓練の実施

組織名:常盤地区防災会

所在地:今治市南日吉町

構成人数:9,721人



### 地域の特徴

常盤地区は、今治市の中心部に位置し、土砂災害警戒区域や蒼社川浸水想定区域等(想定最大規模降雨)があり、早期避難が必要な地域である。また、住宅が密集するほか、アパートやマンションが混在するため、人の移動が多い地域である。

### 活動概要

第1回「情報収集・記入訓練」として、停電時に各自治会から収集した被害情報の地図書き込み訓練を実施した。

第2回「大雨・洪水に備えた訓練」として防災マップを活用し、浸水地区を確認したほか、市が発表する避難情報へのとるべき行動を学び、簡易水防工法や資機材操作訓練を実施した。

第3回「初期消火・救出救護訓練」として火災時の延焼防止を目的とした初期消火訓練や、負傷者の担架搬送訓練及び基本的な救命講習を実施した。

第4回「土砂災害から身を守る訓練」として土砂災害発生箇所状況確認や被災者体験談等による避難の必要性を学習した。



第1回「情報収集・記入訓練」



第2回「大雨・洪水に備えた訓練」

### ポイント

- 被災フェーズ(発災前・後)や地域特性(危険箇所の区分)に合わせた訓練を計4回実施

### 今後に向けて

地区の目標とする「自分の命は自分で、地域は地域で守る」を達成するため、引き続き多くの住民が参加する組織づくりを目指し、防災知識・意識の普及啓発に努めていきたい。

### コメント

#### 今治市 防災危機管理課

それぞれの訓練は、どれも実践的な訓練で、発災時における自主防災組織の率先した活動体制が構築できたほか、訓練中に問題点や改善点等を見つけ出すなど、より実効性の高い訓練として今後の実災害に活かされたいと思います。





第3回「初期消火・救出救護訓練」



第4回「土砂災害から身を守る訓練」

**常盤防災だより** 43号R2.12.1

**第3回「初期消火・救出救護訓練」の実施**

今回は日吉本町地区（10）常盤町上地区（9）常盤町下地区（15）の自治会に参加要請をしました。参加されていない自治会もありましたが、自治会役員を含め45名で、常盤小学校運動場、体育館で実施しました。

今回は、市政出前講座を活用させていただきました。講師として、市消防本部より4名の消防士をお招きしました。

**<訓練要領>**

A 受付を済ますと最初の訓練場所の運動場へ 消防士の指導のもとバケツリレー（25分）日吉本町地区、 消火器使用訓練（25分）常盤町上地区時間が流れれば交代する。

B 受付を済ますと最初の訓練場所の体育館へ (防災士) と消防士の指導のもと体育館…病気の応急手当（25分）常盤町下地区半数 担架使用訓練（25分）常盤町下地区半数、時間がくれば交代する。

○運動場、体育館ともに14:00～14:50  
運動場のグループは体育館へ、体育館のグループは運動場へ10分間で移動  
○運動場、体育館ともに15:00～15:50現地解散

**1 バケツリレー訓練**  
始めに、消火要領の説明後、水槽から消火用バケツ（20個）で給水、それを15m先の「火の筒」へリレーをして、火点めがけて消火活動をする。火点に水を掛けた後のバケツは給水位置までリレーし、再度給水を繰り返す。最初は一列で、次はジグザグで効率的なよい運搬方法を学んだ。

**2 消火器使用訓練**  
始めに、消火器の取り扱いを説明後、水消火器で手動する。火勢が強くなった時、逃げる方向を確認した後、安全ピンを抜く、ホースの先をしっかりとつかみ、ハンドルをつよく握り、火点めがけて消火活動を行う。その時、表を握るのではなく下の火元を握る。表が弱くなれば、さらに近寄って消火活動を行う。

**3 担架搬送訓練**  
まず担架搬送法の基本を学ぶ。傷病者の定例を進行方向に向ける。階段の傾斜のある場所を移動するときは、常に傷病者の頭側が高くなるように、上りは頭側を進行方向に、下りは足側を進行方向に向け搬送する。その他、毛布や竹を利用した搬送法、1名で背後から搬送する方法を学んだ。

**4 救護訓練**  
止血法として直接圧迫止血法、傷に対する応急手当や、足の骨折に対する応急手当を学んだ。三角巾を使用せずに、女性用ストッキング、レジ袋、新聞、雑誌を使った応急手当方法には感心させられた。

**<訓練参加者の感想>**

①初期消火のバケツリレーはみんなで協力して楽しくできた。  
②消火器の使用は初めてで不安でしたが、実際にやらせていただいたのでよかった。いざという時、あわてずにできそう。  
③毛布と竹を使った応急担架の作り方、重い実物火の人影を乗せた担架搬送法、実際にやらせてもらってよかった。  
④出血に対する直接圧迫止血法や骨折に対する応急手当の方法を教えてもらってよかった。特にレジ袋、ストッキング、タオル、ナイロン袋、段ボール、古新聞など身近なものを使った応急手当方法に驚いた。  
⑤家で何もせずにいるより、出てきて防災訓練に参加して本当によかった。（高齢の方）  
⑥色々勉強になった。将来役立ちそうだ。  
⑦消防士さんや防災士さんがよくわかるように説明していただいていたのでよかった。  
一部の方の感想ですが、おおむね好評でした。皆様も防災訓練には積極的にご参加ください。

常盤防災だより 43号 R 2. 12

**【補足】**

- 地区独自で災害対策本部を設立することで、被災状況を集約し、適切な対処行動が取れるような体制づくりをしている。
- 自分たちの住んでいる地区にどのような危険があり、何をしなければならぬかを学ぶことで実災害時に率先して行動できる体制づくりを行っている。
- 防災学習と実働訓練を効果的に行うことで、参加者はより深く災害対応要領等を学ぶことができた。
- 住民との繋がりを強化するために複数人で行う訓練を計画し、住民同士のコミュニケーション力の強化、顔を合わせる機会を増やし、いざというときに助け合える協力体制づくりをしている。

## 災害図上研修を踏まえた防災マップ及び災害・避難カードの作成

組織名:田口地区自主防災組織

所在地:大洲市田口

構成人数:1,726人



### 地域の特徴

田口地区は、大洲市の中心部に位置し、土砂災害警戒区域や肱川及び矢落川の洪水浸水想定区域等があり、過去に何度も大きな被害が発生している。また、高齢者が多いため、災害時には配慮が必要な地域である。

### 活動概要

住宅地図を使用した災害図上研修を実施し、地域内の危険箇所や要支援者を把握した。

図上研修後、近隣住民単位で、「発災前どこに避難するか」、「誰を避難させるか」検討し、「一時集合場所」を各地図上に表示した防災マップを作成した。

完成した防災マップは、氏名、住所等を記載できる名刺サイズの災害・避難カードと一緒に、各世帯へ配布するとともに、誰でも確認できるよう公民館へ掲示した。



災害図上研修

### ポイント

- 災害図上研修による地域内の危険箇所及び要支援者の把握
- 近隣住民単位による「一時集合場所」を記載した防災マップの作成、各戸配布



防災マップ作成状況

### 今後に向けて

今後は、研修会の開催や避難訓練の実施など、引き続き地域が連携した防災活動を実施することで改善点等を把握し、地区防災計画のブラッシュアップに努めていきたい。

### コメント

#### 大洲市 危機管理課

今回の取組は、大洲市で災害・避難カードを最初に作成した三善地区に次ぐ取組で、地域住民等が主体となった災害図上研修を通じ、地域課題を把握したうえで、その実効的な対策を立案できたことが特に優れていると思います。



## 地域の守り手を中心とした住民参加型の津波避難訓練の実施

組織名: 吉海地区防災会

所在地: 今治市吉海町八幡

構成人数: 3,226人



### 地域の特徴

吉海地区は今治市大島の西半分に位置し、瀬戸内海に面しており、また山間部も多い地区である。特に南海トラフ巨大地震の津波浸水想定では、地区の中心部は最大4mの浸水が想定されており、適切な避難行動が求められる。

### 活動概要

津波災害を想定し、一時避難場所へ集合した各住民に対して、自治会役員等が中心となり、安否確認及び避難者名簿を作成した。その後、情報伝達・共有訓練を実施した。

避難時は、周辺で家屋の倒壊や火災等が発生することを想定し、徒歩により避難するとともに、防災士・消防団員等がリーダーとなり、メガホンを活用して住民の安全確保に努めた。

また、避難訓練に併せて要支援者の避難支援訓練も実施した。



避難者名簿を作成する防災士

### ポイント

- 防災士・消防団員等、地域の守り手がリーダーとなった避難訓練の実施
- 津波避難訓練に併せた要支援者の避難支援訓練の実施



避難中の安全確認を行う消防団員等

### 今後に向けて

地域全体を対象とした防災訓練を継続して実施することは難しいことから、自治会単位の防災訓練を引き続き実施し、自分の命、自分たちの命を守る活動を推進し、住民の意識向上を図りたい。

### コメント

#### 今治市 防災危機管理課

自治会・自主防災会・防災士・消防・警察・社会福祉協議会及び自治体等、そしてなにより、約40%と多くの地域住民が協同して訓練を実施したことは大変有意義であり、地域全体の防災力向上につながったと思います。

## 愛媛大学との連携による地区防災計画の作成

組織名:玉津地区自主防災会

所在地:宇和島市吉田町法花津

構成人数:529人



### 地域の特徴

玉津地区は、宇和島市吉田町の法華津湾海岸部に位置し、山と海に挟まれた少ない平地に家屋が密集している地域である。過去の南海地震や豪雨で被災した経験があり、今後の災害に備えて、地域全体で防災活動に取り組んでいる。

### 活動概要

平成30年7月の西日本豪雨災害の経験を踏まえ、地域住民が主体となって地区防災計画を作成した。



ワークショップ開催状況

愛媛大学協力のもと、計4回のワークショップを実施し、地域特性の洗い出しや災害リスクの整理、避難行動時の課題に対する検討等を行った。

また、まちあるきを実施して確認した避難ルートや地域の危険箇所を防災マップに反映したため、地域住民にとってわかりやすく、身近な計画となった。



完成した計画・資料

### ポイント

- ワークショップやまちあるきを行うことにより、地域住民自らが地域特性や課題を検討して地区防災計画を作成

### 今後に向けて

地区防災計画の作成により、「地域として何ができるか」、「何をしなければならないか」が明確となったため、引き続き効果的な活動を実施していきたい。

#### コメント

#### 宇和島市 危機管理課

玉津地区の地区防災計画をモデルとした「地区防災計画作成の手引書」を作成したことで、他地区でも大いに参考とすることができおり、市全体の地域防災力向上につながっています。

## 新型コロナウイルス感染症対策に配慮した見学型訓練の実施

組織名:白浜地区自主防災会

所在地:八幡浜市北浜

構成人数:4,026人



### 地域の特徴

白浜地区は、八幡浜市の中心部に位置し、周囲は山と海に囲まれている。中でも向灘地区はみかんの段々畑が広がり、秋には山一面がオレンジ色へと変わり、全国から収穫支援者が集まり、活気にあふれている。

### 活動概要

新型コロナウイルス感染症を踏まえ、地区を4班に分け、時間を区切り、マスク着用、換気、消毒、手洗いを徹底の上、「見学型訓練」の形式で実施した。

主な取組として、「ポータブルワイヤレスアンプを使用した情報伝達訓練」、「防災グッズ(命のカード)の作成」、「簡易ベッドを使用した避難所生活体験」、「ペット同行避難訓練」、「防災士による展示物の説明(家庭備蓄など)」を実施した。また、協力団体として地域の社会福祉施設等に声掛けを行い、展示ブースに出展してもらい、訓練参加者への情報発信を行った。



展示ブースの様子



ペットの同行避難訓練

### ポイント

- 「見学型訓練」形式の実施
- 「ペット同行避難訓練」の実施
- 防災士を中心とした展示ブースによる防災意識啓発の実施

### 今後に向けて

引き続き訓練実施の際は、展示ブースを設置するなど、参加意欲を高める内容を企画するほか、行政と協同し、積極的な情報発信を行うなど、地域の防災意識向上に努めたい。

### コメント

#### 八幡浜市 総務課 危機管理・原子力対策室

白浜地区は、毎年、防災士を中心に地区独自の防災活動を実施しており、地域を通じて防災意識が高い地区であり、今回実施したペット同行避難訓練は他地区にない先進的な取組として評価しています。

## 実効性のある避難所運営マニュアルへの見直しと避難訓練の実施

組織名:角野校区防災会

所在地:新居浜市中筋町

構成人数:173人



### 地域の特徴

角野校区は、新居浜市街の南に位置し、中央構造線断層帯や、多くの土砂災害警戒区域を有する地区である。平成28年度に「角野校区自主防災会」を設立し、「自分の身は自分で守る」をスローガンに活動している。

### 活動概要

令和元年度に策定した角野校区避難所運営マニュアルをより実効性がある計画として見直すとともに、訓練時に、避難所で使用する発電機などの資機材の、使用方法確認訓練を実施した。

主な内容として、「発電機による防災用ハロゲンライトの点灯訓練」、「発電機による携帯電話充電訓練」、「避難所運営訓練」、「チェーンソー使用による避難経路上の倒木切断作業等、簡易な避難経路確保訓練」及び「避難情報受信手段として「ひめシェルター」、「新居浜いんふお」への勧誘」を実施した。



発電機を使用した避難所運営訓練



倒木を想定した避難経路確保訓練

### ポイント

- 実効性がある避難所運営マニュアルへの見直し
- 倒木切断作業による簡易な避難経路確保訓練の実施

### 今後に向けて

今後も防災資機材全般の取扱いに精通している構成員を中心に、定期的なメンテナンスを実施するとともに、倒木危険箇所の伐採を兼ねた取扱い訓練等を継続して実施していきたい。

### コメント

#### 新居浜市 危機管理課

角野校区は、全住民を対象とした防災訓練を行っているほか、独自の避難所運営マニュアルの作成や避難所設営訓練等を主体的に実施しています。また、小学校や保育園と合同で独自のシェイクアウト訓練を行い、地域の将来を担う世代の育成を進めています。

## 気象情報に係る研修と避難訓練の実施

組織名:橋校区連合自治会

所在地:西条市檜木

構成人数:2,000人



### 地域の特徴

橋校区は、12単位自治会で構成されている。自主防災会と防災士連絡協議会が連合自治会と連携し、防災訓練を通じて橋校区の防災意識の継続と防災力の向上に努めている。さらに、一人暮らしの高齢者が増加しているため、要支援者の災害時支援に力を入れている。

### 活動概要

地域住民を対象とした指定避難所までの避難訓練を実施するとともに、松山地方気象台予報官による気象情報に係る研修を実施した。

訓練では、「住民の安否確認」、「応急救護の体験訓練」、「地域住民による炊出し」のほか、「夜間を想定した自主防災会役員による暗闇の中での避難誘導訓練」を実施した。

また、松山気象台による研修では、「気象庁が発表する気象情報の内容の解説」や「注意すべき情報」などについて学んでいる。



応急救護訓練



松山地方気象台による研修

### ポイント

- 松山地方気象台による気象情報に係る研修の実施
- 夜間を想定した暗闇の中での避難誘導訓練の実施

### 今後に向けて

今後も継続して訓練等の防災活動を実施していくほか、多くの住民が参加する避難訓練と併せて効果的な防災研修を実施するなど、地域住民への防災啓発に積極的に取り組んでいきたい。

### コメント

#### 西条市 危機管理課

橋校区は、地域の自治会や消防団等と連携した防災活動を継続的に実施するなど、日頃から防災意識が高い地域であり、今回実施した夜間避難誘導訓練により、発災時の迅速な避難誘導等が期待されます。



### 3地区合同・連携による防災訓練の実施

組織名: 上吾川中地区自主防災会  
上吾川西地区自主防災会  
上吾川東地区自主防災会

所在地: 伊予市上吾川

構成人数: 1,567人



#### 地域の特徴

上吾川地区は伊予市のほぼ中心に位置し、地域住民数も多い。その為、単独ではなく、3地区合同で訓練をすることにより、一人暮らしの高齢者への対応など、様々な面で地域全体の連携の向上を図っている。

#### 活動概要

近年の台風等による災害や平成30年7月の西日本豪雨でのボランティア経験を踏まえ、断水時や停電時における対策・対応・準備のため、実効性のある防災訓練を行い、自助・共助の体制を整えた。

主な内容として、「安否確認・情報伝達訓練」、「井戸水汲上訓練」、「発電機・水中ポンプ・サクシオンホースによる給水訓練」、「汚水排水訓練」及び「井戸水を汚水と想定した発電機・水中ポンプ・サニーホースによる排水訓練」を実施した。

#### ポイント

- 3地区合同による広域連携訓練
- 断水や停電を想定した井戸水汲上訓練や汚水排水訓練及び発電機使用訓練の実施



給水訓練



汚水排水訓練

#### 今後に向けて

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、近年は地域住民を集めた訓練を実施できていないが、引き続き災害時における資機材の拡充を図るなど、地域の防災力向上に努めていきたい。

#### コメント

#### 伊予市 危機管理課

災害時における飲料水を重要事項と捉え、上吾川地域全体で合同防災訓練を企画し、地域住民の積極的な参加を促すことにより、地域の連携を深めるとともに、地域住民の防災意識の向上に努めています。

## 新型コロナウイルス感染症に対応した避難所のゾーニング訓練等の実施

組織名:長津地区自主防災組織連絡協議会

所在地:四国中央市土居町津根・野田

構成人数:1,090人



### 地域の特徴

長津地区は、四国中央市土居町の東部に位置し、長津干拓等において第一次産業を中心としている。また、土居インターチェンジ付近では近年交通結節点としての利便性の良さから物流の拠点として企業等の立地が進んでいる。

### 活動概要

新型コロナウイルス禍において、発電機の設置や電気配線並びに夜間照明設置場所や台数等の確認を目的に、協議会作成の手順書に沿って、避難訓練を実施した。

主な内容として、「新型コロナウイルス感染症対策における事前受付訓練」、「検温や健康チェックシートによる判別受付訓練」、「本受付時の避難者カード名簿作成及び掲示場所等の確認訓練」、「避難者体育館受入設定配置場所の計測検証訓練」、「避難場所スペース区割、本部、男女更衣室及び救護場所等の設置位置確認訓練」を実施した。



事前受付訓練



避難者受入設定配置場所の確認

### ポイント

- 自主防災組織や防災士を中心とした訓練の実施
- 新型コロナウイルス感染症に対応した避難場所のゾーニング訓練の実施

### 今後に向けて

新型コロナウイルス感染予防のため、近年は思ったような活動はできていないが、市が実施する国のモデル事業事例に基づき、積極的な個別避難計画作成を図り、訓練等における要配慮者の避難の実効性を確保したい。

#### コメント

#### 四国中央市 防災まちづくり推進課

事前受付訓練では、検温や健康チェックシートによる健康な人と体調不良者の線引きを実施するほか、体調不良者や要配慮者などにそれぞれ別室を設けるなど、近年の状況に応じた工夫した取り組みを進めています。

## 住民主体による避難所設営やマイタイムライン作成講座の実施

組織名: 農友地区自主防災班

所在地: 西予市野村町野村

構成人数: 1,461人



### 地域の特徴

農友地区は、西予市野村町の中心部に位置し、土砂災害警戒区域や肱川洪水浸水想定区域に指定されている。平成30年7月の西日本豪雨時には大きな浸水被害が発生したことから、地域での防災・減災への意識が高まり、地域が主体となって防災活動に取り組んでいる。

### 活動概要

住民主体で「避難者確認受付訓練」、「避難所設営訓練」、「非常食炊き出し訓練」及び「応急手当訓練」を実施した。

また、農友地区防災講座として、「私たちにできること、すべきこと」、「マイタイムラインの作成」、「災害に学ぶ」、「正しくおそれる」と題した講習を実施し、参加者それぞれが自助・共助の大切さと、防災意識の高揚、知識の習得に繋がった。

さらに、訓練結果を地区内の小さな行政区単位へ情報共有を行い、今後の防災対策に活かせるよう努めた。



炊き出し訓練状況

### ポイント

- マイタイムライン作成講座による防災知識の習得
- 住民主体による各訓練結果の地区内小行政区単位への情報共有



農友地区防災講座

### 今後に向けて

住民主体で訓練を実施するため、夜間に何度も集まるなど準備が必要であった。また、新型コロナウイルス感染予防のため、満身に訓練が実施できないが、引き続き地区主導による訓練等を実施し、地域防災力の向上に努めたい。

### コメント

#### 西予市 危機管理課

子どもから高齢者まで一人一役の訓練内容とすることで、防災意識の高揚に大きく寄与しているほか、訓練終了後に課題を振り返るなど、より実効性の高い発災時の対応を図ることが出来ていると思います。

## 冬季夜間の大規模地震発生等を想定した避難訓練の実施

組織名:二及自主防災会

所在地:西予市三瓶町二及

構成人数:455人



### 地域の特徴

二及地区は、西予市三瓶町の海岸部に位置し、近い将来発生が危惧される南海トラフ地震では、県の被害想定調査結果によると最高津波水位9.3mが予想されており、ひとたび地震が発生すると津波により甚大な被害が想定される。

### 活動概要

地震の発生は予見できないため、夜間の大地震、ブラックアウト、大津波を想定した「夜間避難訓練」を実施した。

地区内の自主防災組織や消防団、地域づくり団体など50人が参加し、午後6時大地震発生として、地域内の指定緊急避難場所への避難訓練を実施した。

夜間訓練の実施により、避難路に設置した太陽光照明灯や役員が保管する懐中電灯の資材確認も実施した。

なお、参加者への訓練実施における準備や注意点等は、事前に講師を招へいし、研修及び指導を実施した。



指定緊急避難場所への避難状況

### ポイント

- 夜間における避難訓練の実施
- 避難路に設置した太陽光照明灯や役員が保管する懐中電灯等の資材確認を実施



夜間における活動の検証

### 今後に向けて

今後も避難訓練を実施するほか、避難所運営ゲームや女性への防災講演会実施及び高知県黒潮町への研修など多様な取組を進め、引き続き住民の防災意識向上に努めたい。

### コメント

#### 西予市 危機管理課

災害はいつ起こるかわからないという考えのもと、地域住民が主体となって、冬の夜間という厳しい環境下で実施した訓練であり、より実災害に即した形で、素晴らしい取り組みです。

## 地区防災拠点運営訓練の実施

組織名:中の谷・久保の谷自主防災会

所在地:越智郡上島町生名

構成人数:62人



### 地域の特徴

生名地区は、広島県尾道市因島の対岸に位置し、上島町の玄関口となっている。高齢化が進み、日中は若い世代や男性は仕事や学業で島外に出ているため、日中に残っている人員でどのように動くかを意識した訓練が展開されている。

### 活動概要

冬季に南海トラフ地震が発生することを想定し、自助と共助を意識した一時避難場所での対策本部の設置と運営の訓練を行った。

自助訓練として、非常持ち出し物品の確認、自宅周辺と避難経路の安全を確認しながら避難場所へ避難した。

共助訓練として、運営本部のテント設置、無線機を用いた被害状況の確認、消火訓練、チェーンソーや担架を用いた救出搬送訓練、かまどを使用した炊出し訓練や、夜間での災害に備え、発電機や投光器などの資機材の確認を行った。



かまどを用いた炊出し訓練



発電機や照明機器の運用方法の確認

### ポイント

- 災害が起きた際の一連の行動の確認
- 夜間における訓練の実施
- 男女一丸となった訓練への参加

### 今後に向けて

今回の取組は、5回の地区役員打合会を行い準備した。今後も年2～3回訓練を実施することとしており、どのような災害にも即応できるようにしたい。また、災害時は、協力が大きな力を発揮するため、地区内の親睦を図りたい。

### コメント

#### 上島町 消防本部消防防災課

チェーンソーや消火・搬送訓練等に女性も積極的に参加していただき、とても充実した内容となりました。災害時において性別に関わらずできることに取り組む良い手本となったのではないのでしょうか。

## 避難所運営ゲーム(HUG)など総合防災訓練の実施

組織名:松前町西高柳自主防災会

所在地:伊予郡松前町大字西高柳

構成人数:1,165人



### 地域の特徴

西高柳地区は松前町の北央に位置し、町の北側には(一)重信川が流下している。想定最大規模降雨により重信川が破堤した場合、地区の多くは3~5メートル浸水するなど甚大な被害が想定される地域である。

### 活動概要

平成29年台風第18号による異常出水により、(一)重信川が氾濫する危険性を体験したことを踏まえ、総合防災訓練を実施した。

主な内容として、「消火訓練」、「防災資機材の作動訓練」、「簡易テント組立訓練」、「HUG(避難所運営ゲーム)」を実施した。

また、文化祭の機会を捉え、「炊き出し訓練」や「自主防災会による防災関連情報のパネル展」を実施したほか、年2回の防災に関する広報紙発行により、地域住民の防災意識啓発を実施した。



避難所運営ゲームの状況

### ポイント

- 住民参加型総合防災訓練の実施
- 防災関係広報紙の発行など、地域住民に対する積極的な防災意識啓発



避難所運営ゲームの状況

### 今後に向けて

今回の取組後も、防災士が中心となり、定期的な活動を行っている。また、避難行動要支援者の個別計画策定に向けた取組を実施することとしており、今後も定期的に防災訓練や防災講座を実施し、防災意識啓発等に努めたい。

### コメント

#### 松前町 危機管理課

当自主防災会は、平成29年の台風第18号の経験を踏まえ、避難所運営ゲーム(HUG)を実施するなど、設立以降、自助・共助に関する取組を積極的に行っており、他の模範となるよう引き続き地域防災力の向上に努めていただきたいと思います。

## 夜間・停電下を想定した要支援者搬送救助訓練の実施

組織名: 上野区自治会自主防災組織

所在地: 伊予郡砥部町高尾田

構成人数: 433人



### 地域の特徴

上野地区は、砥部町の北東部に位置する高台の住宅団地である。土砂災害や洪水害等の区域外ではあるが、地域住民の高齢化が進むとともに、立地条件から避難時の配慮が必要である。

### 活動概要

夜間の停電時を想定し、「暗闇での防災資機材の搬出」、「発電機や照明装置、電気ストーブ稼働訓練」を実施した。その後、参加住民に資機材の説明や実技を交えた使用方法の解説等を実施した。

また、要支援者をリヤカーにより集会所まで搬送する訓練を実施し、坂道が多いため、搬送時の注意事項などの確認を実施した。

さらに、集会所では、「避難者カード使用による避難者受付訓練」、「非接触型体温計での検温」を実施するなど、避難者の受け入れの流れを確認した。



防災資機材の使用方法的説明状況



避難行動要支援者の搬送救助訓練

### ポイント

- 夜間停電時を想定し、暗闇での防災資機材の搬出・稼働訓練の実施
- 要支援者の搬送救助訓練の実施
- 集会所での避難者受付訓練の実施

### 今後に向けて

夜間に訓練を行ったことで、昼間とは異なった避難の難しさや、地域特有の地形の注意点等の発見に繋がったことから、今後は、要支援者の互助的な対策を検討することとしており、引き続き地域防災力の向上に努めたい。

### コメント

#### 砥部町 総務課 危機管理室

夜間停電時を想定することで、発災時の避難における課題抽出に繋がった実効性の高い訓練であるほか、要支援者対策の検討にも前向きであり、引き続き他地区の模範となるよう、積極的な活動をお願いしたいと思います。

## 愛媛大学と連携した「防災運動会」の実施

組織名: 畑中自治会自主防災組織

所在地: 喜多郡内子町内子

構成人数: 469人



### 地域の特徴

畑中地区は内子町の西部に位置し、管内には小学校や高等学校、自治センターなどの公共施設があるほか、近隣には国指定の重要文化財である木造芝居小屋「内子座」が立地するなど人の往来が多い地域である。

### 活動概要

当自治会は、愛媛大学防災情報研究センターに指導を仰ぎ、子供から高齢者まで参加しやすい全員参加型の防災訓練として「防災運動会」を実施した。

参加者にはタオルや毛布、非常食など非常用持出品をリュック等に入れて持参するよう呼びかけた。

当自主防災組織は5つの行政区で構成しているが、運動会実施の際は同じ行政区だけのグループにならないようグループ分けを行い、普段面識のない人と協力して訓練を行う事で、楽しく防災意識の高揚を図る事ができた。



防災運動会の様子

### ポイント

- 子どもから高齢者まで参加しやすい  
全員参加型「防災運動会」の実施
- ユニークな取組による防災意識の高揚



防災運動会の様子

### 今後に向けて

今回の取組後も、引き続き避難所運営訓練の実施を予定しており、今後も個性的な取組を企画することで、多くの住民参加を図り、幅広い地域住民の防災意識など地域防災力の向上に努めていきたい。

### コメント

#### 内子町 総務課 危機管理班

従来の防災訓練では参加者の固定化が懸案として挙げられていたが、楽しく参加しやすい訓練内容とする事で幅広い住民参加につながったほか、防災意識の高揚が図られ、個性的で素晴らしい取り組みであると思います。



## 倒木撤去などチェーンソー操作訓練の実施

組織名:リゾート地区自主防災組織

所在地:西宇和郡伊方町大久

構成人数:57人



### 地域の特徴

リゾート地区は伊方町大久に位置し、ターン者等が多く居住している。防災資機材を整備し、地区独自の訓練を実施するなど、防災にも高い関心がある地区である。

### 活動概要

地震で倒壊した建物に取り残された生存者の救出や台風等による道路への倒木を想定し、防災資機材(チェーンソー及び安全保護具)を使用した建物の取壊しや倒木の撤去訓練を実施したほか、貸与を受けたその他防災資機材の点検を含めた取扱訓練を実施した。

自主防災会役員が中心となって防災活動を実施し、地域コミュニティの醸成による共助の重要性を再認識したことで、住民同士の顔の見える関係を構築するほか、防災意識の普及・高揚を図ることで、自助・共助による安全・安心の地区づくりに努めている。



倒木等撤去訓練



倒木等撤去訓練

### ポイント

- 倒壊建物や道路への倒木を想定した防災資機材取扱訓練の実施
- 自主防災会役員と住民の防災活動を通じた地域コミュニティの醸成

### 今後に向けて

南海トラフ地震を想定した一時避難訓練や要支援者への声掛け及び情報連絡訓練を実施しており、引き続き住民同士の顔の見える関係を構築し、地域コミュニティの活性化による防災意識の普及・啓発に努めたい。

#### コメント

#### 伊方町 総務課 危機管理室

町内では、多くの道が樹木に囲まれていることから、発災時の倒木による孤立集落となる可能性が高いため、住民自らが資機材の取扱いに精通することで、早期避難に繋がり、地域防災力の向上が図られると思います。

## 夜間停電発生時の避難所開設訓練の実施

組織名:中野川自主防災会

所在地:北宇和郡鬼北町大字中野川

構成人数:188人



### 地域の特徴

中野川地区は鬼北町の中心部である近永地区の南側に位置し、山に囲まれた中山間地域であり、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域が含まれている。また、ため池もあり、地震等の災害時には決壊の危険性がある。

### 活動概要

自宅から集会所までの避難訓練のほか、避難所開設や避難住民の名簿作成及び避難経路の危険箇所確認を実施した。

その後、停電が発生した場合に備え、発電機、照明器具の使用講習を実施したほか、断水時対応訓練として、小型ポンプによる生活用水の汲み上げ訓練や仮設トイレセット利用訓練を実施した。

さらに、数量に限りがある備蓄非常食を避難者でどのように配分するか議論し、実食体験を通して、各家庭における備蓄必要量の参考とした。

### ポイント

- 住民主体による避難所の開設訓練
- 断水を想定した仮設トイレセット等の体験訓練
- 備蓄非常食の実食体験



発電機や照明器具の使用講習



非常食の啓発

### 今後に向けて

地区住民の高齢化により発災時には、近隣住民間の助け合いが重要であると認識しており、今後も引き続き避難訓練実施や資機材の拡充を図るなど、地域防災力の向上に努めていきたい。

### コメント

#### 鬼北町 危機管理課

当組織は、積極的に訓練を実施しており、優良な活動事例として他団体に紹介することが出来ました。また、多数の町民が参加した取組で、防災意識の向上につながったと考えています。

### 3地区合同による避難訓練及び避難所開設訓練の実施

組織名:船越・久家・下久家自主防災会

所在地:南宇和郡愛南町船越

構成人数:509人



#### 地域の特徴

船越、久家、下久家地区は、西海半島に位置し、近い将来発生が危惧される南海トラフ地震では12.9mの最高津波水位が予想されており、高齢者など住民の安全を確保するため、早期避難が求められる地域である。

#### 活動概要

避難所運営マニュアルに基づき、3地区合同による一時避難場所への避難から避難所開設までの訓練を実施した。

訓練に併せ、避難場所に設置してある防災倉庫の資機材確認等も実施した。

避難所では、ファーストミッションボックスに従って、避難所開設訓練を実施したほか、参加者は地区別に集まり、各自の防災袋の中身について、確認を行った。

避難所運営では、食料・物資班による炊き出し訓練として、調理の一部を屋外で実施した。



津波一時避難場所への避難訓練

#### ポイント

- 3地区合同で津波一時避難場所への避難訓練及び避難所開設訓練の実施
- 避難所運営マニュアルに基づく避難所開設訓練、炊き出し訓練等の実施



避難所開設・運営訓練

#### 今後に向けて

日頃から避難所である小学校と協力して避難所運営実行委員会を開催し、必要に応じてマニュアルの修正や避難道等について話し合いを行っており、引き続き訓練等を実施し、避難の実効性確保に努めていきたい。

#### コメント

#### 愛南町 消防本部防災対策課

避難所にカギボックス等を設置し、誰が最初に来てでも避難所を開錠・開設できる体制を確保するなど他の模範となる有効な取組であることから、引き続き適切な避難所運営が図られるよう、防災活動の推進をお願いします。

# 市町自主防災組織所管課一覧

市町名	担当課名	電話番号	住所
1 松山市	防災・危機管理課	089-948-6795	松山市二番町4丁目7-2
2 今治市	防災危機管理課	0898-36-1558	今治市別宮町1丁目4番地1
3 宇和島市	危機管理課	0895-49-7006	宇和島市曙町1番地
4 八幡浜市	総務課 危機管理・原子力対策室	0894-22-3111	八幡浜市北浜1丁目1番1号
5 新居浜市	危機管理課	0897-65-1282	新居浜市一宮町1丁目5番1号
6 西条市	危機管理課	0897-56-5151	西条市明屋敷164番地
7 大洲市	危機管理課	0893-24-1742	大洲市大洲690番地の1
8 伊予市	危機管理課	089-982-1218	伊予市米湊820番地
9 四国中央市	防災まちづくり推進課	0896-28-6934	四国中央市三島宮川4丁目6番55号
10 西予市	危機管理課	0894-62-6491	西予市宇和町卯之町3丁目434番地1
11 東温市	危機管理課	089-964-2001	東温市見奈良530番地1
12 上島町	消防本部 消防防災課	0897-77-4118	越智郡上島町弓削下弓削1037番地
13 久万高原町	総務課 危機管理室	0892-21-1111	上浮穴郡久万高原町久万212番地
14 松前町	危機管理課	089-985-2111	伊予郡松前町大字筒井631番地
15 砥部町	総務課 危機管理室	089-962-6110	伊予郡砥部町宮内1392番地
16 内子町	総務課 危機管理班	0893-44-2111	喜多郡内子町平岡甲168番地
17 伊方町	総務課 危機管理室	0894-38-0211	西宇和郡伊方町湊浦1993-1
18 松野町	防災安全課	0895-42-1111	北宇和郡松野町大字松丸343番地
19 鬼北町	危機管理課	0895-45-1111	北宇和郡鬼北町大字近永800-1
20 愛南町	消防本部 防災対策課	0895-72-0131	南宇和郡愛南町蓮乗寺473番地

注) 組織改編等により、連絡先が変わることがあります。

## 啓発パンフレット、DVDのご紹介

愛媛県では、自主防災組織の皆様が活動の参考にしていただく資料や、地域住民の方々へ災害への備えを呼びかける際に活用していただく資料を作成しています。

冊子	<p>自主防災組織 活動マニュアル</p> 	<p>地域みんなで生き延びる ～個別避難計画の作成が進められています～</p> 	<p>ポケット版みぎやんの 防災グッズチェックリスト</p> 
	DVD	<p>南海トラフ巨大地震 ～地震から命を守る～</p> 	<p>自分の命は自分で守る ～水害や土砂災害から適切に避難するために～ ～自主防災組織活動～</p> 